

第 32 回全国産業教育フェア青森大会

— 常夜燈公園から LIVE 中継・ オリジナルどら焼きも大好評 —

10月15日・16日の両日、「第32回全国産業教育フェア青森大会」が青森市のマエダアリーナをメイン会場として盛大に開催されました。橋場校長は、総合開会式出席後、展示・販売ブースに駆けつけ、2日間にわたり担当するガイド役や販売の生徒たちを激励しました。また、野辺地町教育委員会の職員の方々や野辺地町町長 野村秀雄 氏も会場を訪れ、『野辺地町をこんなにも PR をしてくれてありがとう。』と感謝と激励の声をかけていただきました。本校の担当スタッフは「会場に来て声をかけてもらいうれしかった。励みになったしとても元気が出ました。」とにこにこ顔で語ってくれました。

展示ブースには「常夜燈」のミニチュアを製作して展示。2分の1スケールの常夜燈はとても迫力があり、沢山の方々が足を止めて見入っていました。また、3年次生の総合的な探求の時間の作成した「縄文遺跡群体験ツアー」の冊子を展示し、たくさんの方々に特産品、町の名勝地や北前船など野辺地町の歴史を知ってもらう機会となりました。ガイド役の3年次生の山田彩菜さん（青森佃中出身）と辻心陽さん（青森佃中出身）も熱心に説明にあたりました。

地元地域魅力体験・紹介のコーナーでは、野辺地町の老舗菓子店舗「大湊屋製菓」に協賛頂き作成した、「野辺地西高校オリジナルどら焼き」を販売。小保内彩寧さん（木ノ下中出身）ら販売担当の生徒たちは、ブースを訪れたお客さんに笑顔で対応し、瞬く間に完売しました。

青森魅力発信ツアープログラムでは、西山志思君（十和田中出身）と太田彩夢さん（野辺地中出身）が「常夜燈公園 LIVE」をメイン会場のマエダアリーナとオンラインでつなぎ、ライブで全国の高校生に野辺地町の魅力を発信し、会場では大変好評を得ました。

「野辺地西高校オリジナルどら焼き」の作成を担当した3年次生の尾崎あすかさん（大湊中出身）は、「約1年間をかけて準備してきたことを最大限に発揮することができました。野辺地町の魅力をたくさんの方々に発信することができました。また、青森県の高校生はもちろん、全国の高校生とも繋がることができ、充実した2日間を過ごすことができました。」と感慨深げに語りました。

